



第1号

1997.10



社団法人 千葉県緑化推進委員会

# FOREST STORY

## 森林のはなし

### PART 5

# 世界の宝、

1993年、青森県と秋田県にまたがる白神山地が、世界の文化遺産および自然遺産の一つに登録されました。美しいブナ林のある山として知られるこの森が、ユネスコで採択された国際遺産条約の下、後世に伝えるべき価値があると認められたのです。春夏秋冬、さまざまな表情を見せるブナ林は、四季のある国・日本の自然を代表する森ともいわれています。ところが、そのブナ林に危険が迫っているのです。果たして、私たちはブナ林をその危険から守れるのでしょうか。まずはブナの森の探検からスタートです。

## ブナの森を探検だ！

ブナといってもなんだかよくわからない人。大丈夫です。クリの実やドングリのなる木を思い出してください。あれがブナ科の木です。ブナ科は世界に8属700種以上が知られ、日本には5属22種が分布しています。ブナのほか、いわゆるカシヤナラ、クリ、シイなどもブナ科の仲間なのです。とはいえ、ブナ林といえばやはりブナが作る林のこと。でも、一口にブナ林といっても、ただブナの木ばかりが立ち並んでいる訳ではありません。いろいろな高さの樹木や草が生育しているのです。背の高い木としてはブナ、ミズナラなどのブナ科植物やカエデ類などがあり、20~30mもの高さになります。それより背の低いものとしてはウワミズザクラなどの木があります。もっと低いものとしてはタムシバやオオカメノキなどが見られ、その下にはササ類が繁茂しています。ササのないところではシダ類やスゲ類などが見られます。

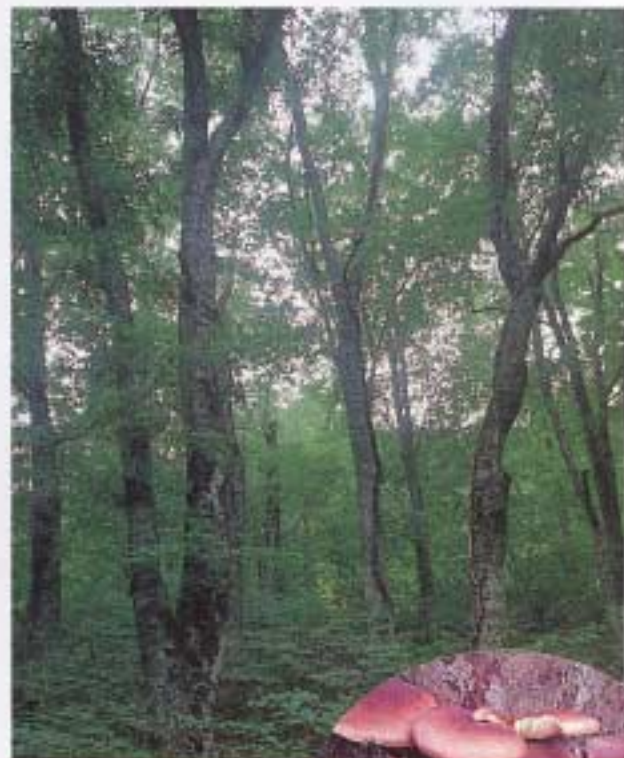
もちろん、植物だけでなく、たくさんの生きものもいます。いろいろなキノコや多くの昆虫、クマゲラやイヌワシなどの鳥類、そしてツキノワグマやニホンカモシカ、ニホンジカなどもいます。どうしてブナ林にはそんなにたくさんの生きものがいるのでしょうか。その謎を解くキーワードが、実は「食物連鎖」という言葉なのです。



## 「食物連鎖」って何？

食物連鎖というのは、たとえばブナ林の中の動植物が、食べたり食べられたりする、という自然の法則のこと。この食物連鎖によって、自然のバランスは保たれているのです。まず、森の植物は、日光のエネルギーを利用して空気中の二酸化炭素と根で吸収した水から炭水化物という有機物を作り、酸素を放出します。自分で有機物を作れない動物は、植物や他の動物を食べます。枯れ木や落ち葉や死体を食べる「掃除屋」ともいわれる動物もいます。枯れ木、落ち葉、死体、掃除屋が処理した生物の破片は、菌類やバクテリアによって分解されて、二酸化炭素や硝酸塩などになって空気中に放出されたり、再び植物に利用されたりします。

ブナ林には、いろいろな草や木があるから、それを食べる多くの昆虫が集まり、その昆虫を食べ物とするたくさんの動物が生息することができるのです。森の生きものたちは、このように食物連鎖によって結ばれ、周囲の無機的環境と一体となって生態系を作っているのです。そして、人間もその生態系の一員。だから、あまりピンと来ないかもしれませんが、森とは決して無関係ではられないのです。



世界遺産に登録された  
白神山地のブナ林

ブナ林でよく見かけるツキノクダケ。夜、発光する毒キノコで、ブナに元気がなくなると出てくる

# 日本のブナの森を守れ!!

## 森の大切さ

最近刊行された、日本の植物群落に関する「レッドデータブック」では、多くのブナ林が、リゾート開発や伐採その他の開発によって、消失や劣化の危機にあることが報告されています。白神山地のような保護の対象となった場所でも、こんどはエコツーリズムが森に対する新たな脅威となっているそうです。

ブナ林に代表される森のはたらきには、第1に、環境保全があげられます。今、世界では二酸化炭素による地球温暖化が問題とされています。今年12月には京都で「気候変動枠組条約第3回締約国会議」も開催されます。森林は、二酸化炭素を吸収し、生物に欠かせない酸素を1年間に1haあたり10～20tも放出するといわれます。また、ブナ林をはじめとする落葉広葉樹の森は、水分の蓄積保持機能にも富み、「緑のダム」として気象の変化を和らげ、風・洪水、土砂崩れなどの災害を防ぐ重要な役割も担っているのです。



もちろん、林産物の供給も森の大切なはたらきの一つです。森林は建築材、紙などの原料としてのパルプ材を生み出します。キノコや山菜などの食物も作り出すのです。

## 森を守る方法

さまざまな形で、私たちは森の恩恵を受けています。でも、一度失ってしまった森の自然は、なかなか元には戻らないのです。では、ブナ林やその他の森を守る方法はあるのでしょうか。私たちにできることがあるのでしょうか。

その答えは、イエス、です。まずは、自然に興味を持つことから始めましょう。

千葉県立中央博物館では、5年前に開催した特別展「ブナ林の自然誌」に続き、今年10月4日～12月7日、シイやカシの森にスポットをあてた特別展「雨の森の不思議な生きもの」を開催。常緑性の森の大切さを訴えます。

また環境緑化や森林づくりを行っている当緑化推進委員会では、みどりのボランティアの募集、森林浴のつどい、緑の募金などを実施しています。詳しくは8ページをご覧ください。

自然に興味を持ち、いつかそのすばらしさを理解することができたら…。それは決して難しいことではありません。私たちはまず最初の一步を踏み出しさえすれば、自然はその魅力を自分から見せてくれるにちがいません。

\* 6ページで、千葉県立中央博物館・原正利氏編「ブナ林の自然誌」の本をプレゼントします。



ブナ林に生えるツルシキミの実。千葉県でよく見るミヤマシキミの変種で、雪が多いところに生えるため、全体に小さい



ブナの芽生え。1年目でやっと双葉が出たばかり。本葉はまだ展開していない(栗駒山にて)

八甲田山で見つけたブナの花。黄色い房のような花が咲く

栗駒山原の春のブナ林。斜面を新緑が駆け登る



ブナの森に咲くムラサキヤシオツツジ

▶ 今回ご指導いただいた原正利さん。日本にとどまらず、世界中のブナ林を歩いている  
写真提供/原正利さん 落合啓二さん

千葉の散歩道

# あけぼの山 農業公園 (柏市)

## 咲き競う花々と 鳥の鳴き声の中 自然に親しみつつ農業体験を



古くから農業が盛んだった柏市。近年は都市化、住宅化が進み、そんな横顔は忘れられつつあります。市民をはじめ多くの人たちに、柏市の農業の様子を知ってもらい、農業を通して自然を満喫したり、土の素晴らしさを体験してもらいたい、そんな願いから平成6年4月にオープンしたのが、「あけぼの山農業公園」です。

利根川沿いの24ha(東京ドームの約5倍)の広大な農地を利用した敷地には、「花畑」「市民農園」「風車と水辺の広場」「資料館」「アスレチックコース」「加工実習館」など、多彩な施設が用意されています。「花畑」では、ちょうど10月下旬まで、コスモスの花々が風車前で可憐な姿を披露しています。それに伴ない、10月19日には「農業公園まつり」が開催されます。ほかの季節では、

2月～3月にかけては梅、3月上旬からは県花の菜の花、4月上旬からは桜など、四季折々に次から次へと花の競演が繰り広げられます。中でも4月中旬に花開く、15万本もの見事なチューリップは圧巻。多くの人でにぎわいます。

「市民農園」は、市民を対象にした貸し農園や、田植えや農作物の収穫を体験できる体験農園が、「加工実習館」では、柏産の農作物を利用して、味噌作りや梅干し作りにチャレンジできます。そのほかサイクリング用に自転車も無料貸し出ししてくれますし、柏産の新鮮な野菜を農家の人から直に購入できる「トマトハウス」もあります。大らかな自然とふれあひながらの1日は、ファミリーにも好評。ぜひ出かけてみてはいかがでしょうか。

■交通 / JR常磐線柏駅からバス30分、徒歩8分。車の場合、常磐自動車道柏ICから若柴交差点を左折後、花野井交差点を右折し、大利根有料入口を右折後約2Km

■入園料 / 無料 (ただし加工実習館など一部施設は有料)

■開園時間 / 午前9時～午後5時 (ただし売店は午前10時～午後4時、バーベキューガーデンは午前11時から午後8時まで)

■休園日 / 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

■あけぼの山農業公園 0471-33-8877



## 里山自然も捨てたもんじゃない!

「里山は、日本の伝統的な農業のあり方が作り出した自然」と、解説するケビンさん。印西市に住んで10年。近隣の里山には、豊かな生態系とさまざまな自然のミニ環境が、パッチワーク状態に交じり合い残っているとも。少年のように瞳を輝かせて語るケビンさん。部屋にはスズメバチ（もちろん死骸）をはじめ、野山から集めてきた種や昆虫がいっぱい。大切な宝物です。



「今、秋のまっさかり。アカトンボが飛び回ってるでしょ? よく見るとナツアカネやアキアカネ、ノシメトンボ、マユタテアカネなんか色や模様で種類が違う。バッタもまだ見られるかもね。植物だっておもしろいよ。花が実になって遠くまで種を飛ばすでしょう? 風を利用したり、鮮やかな色の実が鳥が食べてくれるのを待っている。自然は小さなドラマがいっぱいだからね。」

自然観察といっても、別に遠くへ行く必要はないよ。身近な所、庭でも公園でも学校でも、気をつけて観察すれば見られる。このあたりは町からちょっと離れただけで、畑や田んぼがあったり、谷津や雑木林があったり…。里山自然だって捨てたもんじゃないよ。そうそう、日本は水との関わりが深いから、水辺の環境もおもしろい。コブシの花が咲く頃、アズマガエルやガマガエルが出てくる。カエルの観察も、ぜひやってみて。1年間ずーっと観察するだけでも、季節によっていろいろな変化があるでしょう? 単なる景色として見過ごしてきた所を、まず見直すところから始めるといいね。」

## 「なぜ?」で始まる自然観察

「人によって、自然との関わりは違うと思うんだけど、ナチュラルリストになるには、2つの視覚が大切。1つ目は、回りの自然環境に好奇心を持つことね。「なぜなんだろう?」って、興味を持つ。2つ目は、好奇心を満たすために自分の目で観察することね。積極的に知りようと思ったら、きっと発見があると思うよ。自然には、小さなドラマがたくさん展開されているんだから。この心構えがあれば、だれでも、いつでも、どこでもナチュラルリストになれるよ。」

# ナチュラルリストになろう!

## PART4

### 身近な里山自然の楽しみ方

と、照したように、今回は里山の自然をテーマに多方面で活躍のケビン・ショートさんに登場していただきます。里山の魅力と、たれでもいつでもどこでもなれるナチュラルリストのポイントを語っていただきました。と、ここで「里山ってなぜが懐かしい響きを持った、ステキな言葉だとは思いませんか?」



## フィールドスケッチを描こう!

「積極的に知りようすることが大切と言ったけど、人から聞いたりしてもすぐ忘れちゃうから、自分で観察して自分で調べてみることね。フィールドスケッチを描くと忘れないし、記録にもなるよ。アートじゃないから、うまくなくていいんだよ。知るために描くんだから、簡単な特徴を描くだけでもいいね。マイペースで、少しづつ発見していく。これが、自然観察の魅力だね。身近な所で見える目や楽しみ方を覚えたら、山歩きや大自然の中で生かすと、もっと違った楽しみ方ができる。自然との関わりがますます深くなるね。」



秋の谷津。ピーナツの収穫時



カマキリの産卵。これからの寒い冬を卵は固いカラの中で過ごす



アカトンボは胸の模様で識別する。写真はマユタテアカネ



鳥の食欲をそそる、色鮮やかなマユミの実



ゴンズイ



ショウリョウバッタ

アカガエルが結婚式を挙げる2月下旬の頃の谷津



### ケビンさんのリュックの中身

●フィールドノート(フィールドスケッチを描くための、筆記用具などの7つ道具。色エンピツも必需品) ●ルーペ ●小型双眼鏡 ●図鑑(出かける

場所や季節に適用した物)

### プロフィール

1949年、ニューヨーク生まれ。国籍USA。1972年来日し、全国各地を回り日本に魅了される。日本語と日本史を上智大学で、アラスカ大学では文化人類学を学び77年修士号を取得。87年より印西市に住み、「里山自然」のフィールドワークを開始。91年にはスタンフォード大学で博士号を取得。現在は、博物学・自然史ライターとしてテレビ、ラジオ出演や新聞、雑誌などにエッセイを寄稿。自然観察会、講演会などを通して環境教育活動を行うなど多方面で活躍中。



### 緑 自 慢

高層マンションが立ち並ぶ印西市の千葉ニュータウン。その一角にある印西市立小倉台小学校に、平成9年5月28日、ビオトープが誕生しました。昔は、自然の中でいろいろな生き物が支え合って生きていました。そんな仕組みを持った環境をビオトープと呼んでいます。同校は児童数958人。マンションに住む子供たちにもっと自然とふれあってもらおうと、広さ約950平方mの中庭に、里山の自然が再現されたのです。

「小川や池の中の島、橋など子供たちのアイデアです。池の土台固め、ガマやヨシなどの湿地植物の植え込みも子供たちの手作業。『ふれあいの里』と名付けたのも子供たちです」と、校長の佐伯忠志先生。真ん中に池や水田、沼を配置し、農道で結んだ『ふれあいの里』。ぐるりと取り囲むのがクスギ、ヤマモミジなど落葉樹。イヌツゲ、ヤブツバキ、カラタチなどの常緑樹や、モモヤカキ、ミカンなどの果樹園。すべて身近な里山のものばかり。「まだ成長段階ですが、10年後の雑木林が楽しみです」と、校長先生。

また、『ふれあいの里』は生きた教育の場です。サツマイモやキャベツ畑は3年生の理科の教室。「教科書に出ていた写真より、本当はずっと小さいんだね」と、キャベツの葉の裏にいるモンシロチョウの幼虫を見つけて、驚きの声を上げる子供たち。水田では2年生が田植えを体験。その水田の泥で、ツバメが校舎の6カ所に巣作り。子ツバメの巣立ちを皆で見守りました。野草園には、4年生以上でつくられた『野外観察クラブ』の20人が、近くの里山で採集した野アザミ、ワラビ、セリなどを植



ました。「秋と春の七草や、もっと魚や昆虫も楽しみたいですね」と、顧問の吉野信之先生。小川や池の水は、雨水と水道水を合わせてポンプで循環。池に放流した10匹のクロメダカは、すでに数え切れないくらいに増えています。フナ、クチボソ、タナゴも住みつきました。高学年の自然環境を考える教材です。「育てるということではなく、共存させて見守るといっていいでしょうか。草木が枯れてしまえば何が原因なのかを考える。虫がついたら観察する。そして、どんな鳥が集まってくるか…。すべて生きた教育です」と、吉野先生。さらに、「生き物とのふれあいの中から、生命の不思議、大切さを感じ取って欲しい。将来は子供たちだけで維持管理ができれば…」と、考えています。

休み時間や放課後は、子供たちであふれてしまう『ふれあいの里』。でも、「今は好きに遊ばせています。ダメと言う言葉で縛りたくないんです。ただ、決まりは2つ。生き物を持ち帰らないこと。逆に生き物を連れてきたときは許可を得ること」と、吉野先生。長い目で見ていきたいと、やさしい笑顔です。

ところで、童心に戻って瞳を輝かせる先生を発見。校長先生はヒザまで泥につかかっての田植えに参加。そうそう、教頭先生が育てているというナスと枝豆もおいしそう。昔のいこいの場所なんですね。学校ばかりではありません。オープン教室の同校。学校と地域を仕切るフェンスもないので、自由に親子で観察に来るとか。散歩の途中に寄っていく方もいるそうです。池にカワニナを離してホタルを呼びたい。お茶の木を育てて茶摘みをしたい。シイタケを栽培する計画も…と、先生方の夢と遊び心は広がります。そして、子供たちの心へと確かに受け継がれるのです。きっと、ホタルが飛び交う日も近いですね。

オススメします。  
この本……

#### ブナ林の自然誌 原正利編



1992年の千葉県立中央博物館の特別展「ブナ林の自然誌」の解説書を土台にし、ブナ林の植物や菌類に関するナチュラルヒストリーの最先端をまとめた本。春の芽ふき、初夏の新緑、秋の黄葉。ブナ林とそこに暮らす草や木、キノコや地衣類、蕨類の生活を解説。起源や歴史、世界のブナやブナ林なども紹介しています。  
平凡社 定価2,200円(本体2,136円)

#### 日本の子どもたちが 地球を救う50の方法 アースワークスグループ編



アキ缶でジャングルを救う。ガボロジエは子どものジョーシキ。国際子ども環境ミーティング。川と緑を考える子ども会議…。子どもたちが力を合わせればすごいことができるんだ、というわけで、仲間といっしょにできることが50種類も紹介されています。亀井よし子・芹澤恵・訳、松岡達英・絵  
ブロンズ新社 定価1,200円(本体1,165円)

#### ケビンの里山自然 観察記 ケビン・ショート著



内に少年の心を宿し、日本の自然に心底惚れ込んでいる達意の探検家・ケビンが綴る観察記です。四季折々、身近な自然の楽しみ方を、写真とフィールドスケッチを使って紹介。カエルに夢中になったり、昆虫少年になったり、植物人間になったり…と、自然の中を飛び回ります。  
講談社 定価1,700円(本体1,650円)

\*抽選で上記の本を、各1名の方々にプレゼントします。ハガキに希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんすをどこでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページの右下参照。締め切りは11月30日(当日消印有効)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

# 企業の中の緑

双葉電子工業(株)  
(長生郡長生村)

長生工場

正門を入ると、一直線にハクレン、モクレン、ベニカナメモチの街路樹、そのわきに幅2mほどの色とりどりに咲く花のじゅうたんが目に飛び込んできます。そして、約33万平方mの広大な敷地をサクラの木が取り囲んでいます。ここは、蛍光表示管や金型用部品、ラジコンの送受信機などの製造、その開発研究施設がある双葉電子工業(株)の長生工場。蛍光表示管とは、文字や図形が光って表示される電子部品のことで、身近な例ではオーディオ、ビデオ、電子レンジなどの家電や車のメーターパネルなどに使われています。最初の工場が建てられたのが、昭和58年。その後次々に工場が増設され、今では全従業員の半数の約1,200人が働くメイン工場です。

長生工場の進出に当たって、環境緑化担当部門が本格的に緑化の整備を始めました。「ここは、人の足が踏み入れられないような湿地帯でしたので、一から建物と景観をどう調和させるか、試行錯誤の連続でした」と、緑化担当の中心になっている庶務ユニットリーダーの高橋さん。しかも造園のプロに任せず、チームの全員が知恵を絞り、コツコツと樹木を増やしてきました。14年を経た現在、ケヤキ、クス、カイヅカイブキ、ベニカナメモチ、サザンカ、タマユキなどの中・高木がおよそ3,000本、サツキなどの低木を入れると数万本にも。その苦勞が実って昨年は、(財)日本緑化センターが選ぶ緑化優良工場の部門で見事会長賞に輝きました。

受賞を機に、今年から花壇作りに力を入れ、ヒマワリ、コスモス、マリーゴールド、ペチュニアなど約27,000株を苗から作り、メインストリートを中心に移植しました。早春には県の花であるナノハナを花壇に埋めつくしたいと張り切っています。「樹木に比べると、水やりなど手入れに随分手間が掛かりますが、女性社員はもちろんのこと、男性社員にもたいへん好評です」と、業務管理部法務チームリ

ダーの大野さん。赤、白、黄色とほぼ一年中目を楽しませてくれる花々は愛らしく、これからも社員の心を和ませてくれそうです。

現在、25人の緑化チームは毎月の計画を立てたり、緑化のノウハウを学んでいるところですが、まだまだここをこうしたい、ああしたらという希望はたくさん。「サクラもまだ若木が多いのですが、あと何年かしたらお花見ができるようになるでしょう。その時には、地域住民の方にも喜んでいただけたらと思いますし、社員と一緒に観賞していただけたらと思っています。工場はモノをつくるだけでなく、ゆとりと健康的な環境も大切です。そのためにも周辺地域との調和を考えた緑化を進めていきたいですね」と、高橋さんは熱っぽく語っていただきました。



## 森林・緑化基金へご寄附ありがとうございました。

- 中村 圭一 宇井 重雄 鈴木 和彦  
 株式会社白貨店船橋店ドンクマリパッチ募金箱  
 池子常務委員会  
 池子常務委員会  
 中部林業事務所・林道課職員一同（昭和47～51年度）  
 吉野造園  
 東京清光  
 東海造園土木  
 池田イカワ  
 南小田造園  
 香樹園緑化建設  
 東正造園土木  
 南石橋造園土木  
 全国植樹倶楽部  
 東金造園土木  
 富津市森林組合  
 大野新製菓  
 グリーンインテリア  
 河崎造園土木  
 大村園緑化  
 東京造園  
 信和造園土木  
 林造園土木  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園  
 フタバ緑化産業  
 千葉造園土木  
 松武造園土木  
 藤木園緑化土木  
 高山造園土木  
 市原造園  
 京葉緑化工事  
 池田造園土木  
 南府馬造園土木  
 池田造園土木  
 池田造園土木  
 南谷中造園  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園土木  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園  
 池田造園

※平成9年1月から6月まで、  
 票不同、敬称は略させていただきました。

※寄附者総数

## いっしょにみどりづくりしませんか？ 「みどりのボランティア」会員募集

「みどりのボランティア」とは、みどりの大好きな方々が集い、かけがえのないみどりを、ボランティア活動で守り育てようというものです。

すでに現在、たくさんの方々が登録・活動されていますが、いっしょに活動して下さる仲間をさらに募集しています。



研修会なども開いておりますので、経験が無くても知識や技術を身につけることもできます。山やみどりに興味のある方なら大歓迎

です。いっしょにいい汗をかきませんか？

- 応募資格 満16歳以上の方、初心者大歓迎
- 問い合わせ 本委員会 043-225-3181

## みどりのボランティア シンボルマーク募集

自主的な活動として、県内のみどりづくりを進めている「みどりのボランティア」活動ですが、これからも多くの方のご参加をいただき、より発展的な活動となることを願い、この度、「シンボルマーク」を募集することになりました。応募要領は下記のとおり。たくさんのご応募をお待ちしております。

- 募集内容 みどりのボランティアをイメージし、親近感のあるもの
- 応募規定
  - A4判画用紙にて使用で3色以内でデザインしたもの(自作未発表作品に限る)
  - 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記
  - 作品の返却不可、著作権は本委員会に帰属
- 賞 最優秀作品賞1点(副賞5万円と記念品)  
優秀作品賞2点(副賞2万円と記念品)  
佳作2点(記念品)を選出
- 応募先 本委員会「シンボルマーク」係
- 締め切り 平成10年1月31日(当日消印有効)
- その他 詳細は本委員会まで

## みどり通信マイシャッターチャンス 作品募集

緑(自然)をテーマに撮影した写真を募集中です。撮影日時、場所、コメントを書き添えて、本委員会(宛先は右下参照)マイシャッターチャンス係へ。掲載された方には、オリジナルテレホンカードをさしあげます。

## 秋季・緑の募金のお願い

9月1日から緑の募金法に基づき、「秋季・緑の募金」運動を行います。(10月末まで)

お寄せいただいた募金は、緑あふれ、潤いある環境づくりを進めるために役立てられます。また一部は、世界的な環境保全のための緑化運動や森林の整備にも役立てられます。県民の皆様のご理解とご協力を何卒お願いいたします。

また、企業・職場単位での募金や、催しなどでの募金運動も推進しておりますので、ご協力、ご関心のある際は、本委員会までご連絡ください。

## ●季節の花● ミソハギ

ミソハギ科の多年草。山野の湿地に生え、高さ1m前後となる。萩の紫色に似た花を穂状につける。花期は7月～8月。孟蘭盆会には仏壇に供える。花が終わる頃、全草を刈り取って日干しにし、それを煎服するか粉末にして服用すると、下痢止めになるという。

写真提供/吉野儀氏



## 表紙の絵

表紙の作品は、平成8年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、小学校低学年の部で千葉日報社賞を受賞した、君津市立三島小学校3年・木村美鳥さんの作品です。



## グリーンえっせんず 第11号

1997年10月1日発行

発行/ (社)千葉県緑化推進委員会

〒260 千葉市中央区長洲1-9-22 森林会館

TEL 043(225)3181 FAX 043(225)3255

編集/凸版印刷(株) TEL 043(245)7071

この広報誌は、再生紙を使用しています。